

2015年12月10日
テオリア第39号

定価 350円
毎月10日発行
定期購読料 年間 4000円
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア
東京都千代田区内神田1-17-12
勝文社第二ビル101
TEL&FAX 03-6273-7233
ホームページ
http://theoria.info
E-mail: email@theoria.info

安倍政治をいかに突き崩すか



総がかり国会前集会=11月19日

安倍政治を

いかに突き崩すか

11月13日(現地時間)、パリで「同時多発テロ」が起きた。「テロとの戦い」がさらに拡大している。対テロ戦争は今開始まったわけではない。パリでのテロは詳細に報道する西側マスコミの多くがレバノン、イエメン、トルコなどのテロに関して犠牲者数しか報道しない。「テロとの戦い」の空爆によって民間人が多数殺傷されている事実はわずかしら報道されない。この非対称性こそ、「テロリスト」を生み出しているのだ。

11月17日、安倍政権は沖縄県を相手に埋め立て承認取り消し処分を取り消しの代執行訴訟を提訴。沖縄の自己決定権を否定し、強権的な基地押し付けを続けている。安倍政権が高唱している安全保障の本質が表れている。(11月21日)

年末カンパをお願いします

皆さん、年末カンパをお願いします。

研究所テオリアは10月12日、第4回総会記念シンポジウムを開催し、4年目の活動を開始しました。

15年夏の安保法案に反対する闘いは新たな運動の登場・可能性を示すものでした。一方でアベノミクス「新三本の矢」など、貧困と格差を拡大する政治が続いています。変革のための民衆の思想、理論、社会ビジョンをどう創造するのか。共に探求していきましょう。

2015年12月

研究所テオリア運営委員会

◆カンパ送り先

郵便振替 001800-5-567296 研究所テオリア

城南信用金庫神田支店 普通口座 口座番号22000573 口座名 研究所テオリア(信金への振込の場合はFAX、メールなどで振込内容をご連絡ください)

座標塾第12期 (2016年1月~3月)

- 第1回 民主主義の甦生
- 2015年安保闘争の中から 1月22日(金)
- 第2回 EU危機をどう見るか
- 反緊縮の抵抗とオルタナティブ 2月19日(金)
- 第3回 アベノミクス再審
- 税と社会保障から考える 3月18日(金)

講師 白川真澄

コメント 第1回・丹波博紀

第2回・稲垣豊

第3回・未定

時間 午後6時半~9時

会場 文京シビックセンター1(予定)

参加費 通し2500円(会員1500円)

1回1000円(会員500円)

※要申込

連絡・申込先 研究所テオリア

03-6273-7233

email@theoria.info

紙面紹介

- アベノミクス「第2ステージ」の欺瞞 宮崎礼二……………2面
- 戦争法廃止への第3ラウンド 杉原浩司……………3~4面
- 安保法制反対の中から……………5面
- 参院選へ討論会/グローバル連帯税……………6面
- TPP/原発シンボ……………7面
- 横田悦子さんを追悼する/書評……………8面

アベノミクス 「第2ステージ」の欺瞞

宮崎 礼二
明海大学経済学部准教授

9月24日、安倍首相はアベノミクス「第2ステージ」を発表しました。「第2ステージ」では、(1)希望を生み出す強い経済(2020年の国内総生産(GDP)を600兆円)、(2)夢を紡ぐ子育て支援(希望出生率を1.8に回復)、(3)安心につながる社会保障(介護離職ゼロ)を「新3本の矢」にするつもりです。

目くらまし戦法

「新3本の矢」が具体的な政策手段としての「矢」ではなく、政策目標としての「経済優先」へと国民の関心を逸らす、目くらまし戦法なのです。安倍政権は、1960年の安保改定による岸内閣の総辞職、池田内閣の誕生による経済発展路線、所得増進計画への転換で、国民の関心を政治から経済へと切り替えた戦術を踏襲しています。

英フィナンシャルタイムズ紙は社説で「期待外れ」とバツサリ切り捨てました。これまで株式市場の歡心を買ったことに躍起であった安倍首相ですが、アベノミクスを大歓迎してきた海外投資家の売り姿勢を買った。外資の売却姿勢を買った。外資の売却姿勢を買った。外資の売却姿勢を買った。

「第1の矢」として、GDPを現在の490兆円から600兆円に増やす目標が掲げられました。そのためには年率3%の成長が前提とされますが、7~9月期のGDP成長率は、実質でマイナス0.2%、年率ではマイナス0.8%でした。4~6月期に続く2期連続のマイナスでした。アメリカの景気基準に従えば、すでに日本経済は景気後退に入っているのです。

「強い経済」の欺瞞
環を停滞させていることが大きな原因です。もっとも仮にGDP成長が実現したとしても、貧困と格差拡大のアベノミクスにおいては、成長の「果実」は国民のところまで「したりたり落ちて」くることはありません。ここで「強い経済」を戦争法とのかかわりで考えてみましょう。

日本があるかのような発言をしました。さらに、安倍政権の安全保障政策が「アベノミクスと表裏一体」であるとしたうえで、「厳しい財政の中にある日本は、防衛費を劇的に増やすことはできません」と経済的な制約に触れています。つまり、「強い経済」で財政を強化すれば軍事費を増やすことができるということになります。

「的」であり、「夢物語」だと批判されていますが、それが狙いであり、戦争法から「経済優先」へと国民の関心を逸らす、目くらまし戦法なのです。安倍政権は、1960年の安保改定による岸内閣の総辞職、池田内閣の誕生による経済発展路線、所得増進計画への転換で、国民の関心を政治から経済へと切り替えた戦術を踏襲しています。

その結果、雇用者全体に占める非正規の割合は、12年の35.2%から37.2%へと上昇しました。非正規の賃金は正規の63%程度であり、大きな格差があります。そのため、非正規の大幅増によって労働者1人当たりの賃金は押し下げられる結果となりました。また、正規よりも低い賃金の非正規の増大は、ワーキングプアの増大に直結し、年収200万円以下のワーキングプアは史上最多の約140万人に達しました。労働者の4人に1人がそれに該当します。

安倍首相は、「第2ステージ」の目標として「一億総活躍社会」を目指す」と宣言しました。そのための第2、第3の「矢」として「子育て支援」と「介護支援」

非正規の増加と「生涯派遣」を推し進め、またホワイトカラーエグゼクティブを導入して長時間労働に拍車をかけながら、出生率の引き上げと介護離職のゼロを目指すというのは、あまりにも矛盾しています。さらに、社会保障などの公的サービスを産業化し、経済成長の「新たなエンジン」にするとしています。国民の安心安全を目指すのではなく、国策で新しい市場と企業の収益の機会を創り出そうというものです。



検証 首相の自賛

安倍首相は、「雇用は100万人以上増え、2年連続で給料が上がった」と自賛しました。雇用はたしかに

増えました。雇用は、2012年7~9月期の5156万人から15年同期には5301万人へと145万人増加しました。しかし、そのほとんどが非正規の増加によるものでした。正規は3327万人から3329万人へ2万人の微増にとどまり、非正規は1829万人から1971万人へと142万人の増加でした。

安倍首相は、「第2ステージ」の目標として「一億総活躍社会」を目指す」と宣言しました。そのための第2、第3の「矢」として「子育て支援」と「介護支援」

非正規の増加と「生涯派遣」を推し進め、またホワイトカラーエグゼクティブを導入して長時間労働に拍車をかけながら、出生率の引き上げと介護離職のゼロを目指すというのは、あまりにも矛盾しています。さらに、社会保障などの公的サービスを産業化し、経済成長の「新たなエンジン」にするとしています。国民の安心安全を目指すのではなく、国策で新しい市場と企業の収益の機会を創り出そうというものです。

安倍政治と「一億総活躍社会」

安倍首相は、「第2ステージ」の目標として「一億総活躍社会」を目指す」と宣言しました。そのための第2、第3の「矢」として「子育て支援」と「介護支援」

非正規の増加と「生涯派遣」を推し進め、またホワイトカラーエグゼクティブを導入して長時間労働に拍車をかけながら、出生率の引き上げと介護離職のゼロを目指すというのは、あまりにも矛盾しています。さらに、社会保障などの公的サービスを産業化し、経済成長の「新たなエンジン」にするとしています。国民の安心安全を目指すのではなく、国策で新しい市場と企業の収益の機会を創り出そうというものです。

国連・憲法問題研究会講演会

戦争法廃止への第2ラウンド 立憲主義と民主主義の逆襲

杉原浩司 集団的自衛権問題研究会

立憲か非立憲か

戦争法「成立」から2ヶ月。昨日(11月13日)現地時間、パリで同時襲撃事件が起こった。このようなテロ事件はアメリカ、ヨーロッパなど各地で起き、テロと戦争の連鎖が続いてきた。今回戦争法を制定したことで日本が巻き込まれる危険性が高まる。

後藤健二さん、湯川遥菜さんを殺したとされるISの「ジョーン」と呼んでいる人物に対する無人機での暗殺攻撃を行ったことも昨日発表された。2つの出来事は象徴的。

戦争法「成立」から2ヶ月。昨日(11月13日)現地時間、パリで同時襲撃事件が起こった。このようなテロ事件はアメリカ、ヨーロッパなど各地で起き、テロと戦争の連鎖が続いてきた。今回戦争法を制定したことで日本が巻き込まれる危険性が高まる。



杉原浩司 集団的自衛権問題研究会

成立しなかった。後で議事録を捏造して、無理やり「成立」させた。安保をめぐるたたかいではあったが、私は「立憲」か「非立憲」か、一番の争点だったと思

今回の運動で大きく変わったのはスピーチの主題が「私たち」から「わたし」に変わったこと。昔は「我々」と「アジテーション」

ただ、この幅広さには弱さもある。「反対」には自衛隊に反対している人から、憲法をきちんと変えれば個別の自衛隊には賛成だという人まで含まれる。自衛隊をどうするかで危うさが出てくるだろう。

「戦争をしたくなくてふせぬ」「誰の子とも殺させない」とりま廃案など、これまでの運動からは思いつかないような言葉が発明された。

運動から出た言葉が新語・流行語大賞候補になる。これまで政治家の言葉が政治の言葉だった。今年は上許されないという、9条解釈のコンセンサス(合意)は壊れていません。「法律は共同体のコンセンサスを甘く見過ぎている」と言っている。

多くの法律家、元内閣法制局長官、元最高裁長官などが違憲だという声を上げた。非常に象徴的だった。

反知性主義と新しい言葉

安倍政権は秘密保護法、原発再稼働、集団的自衛権などひどいことばかりやっている。しかも、そのやり方は知性や論理のかけらも感じさせない。安倍政権は反知性主義だという批判が浸透している。

これに対して、シールズや学者の会は学問・論理に重きを置きながら安倍政権を批判した。憲法9条をはじめ様々なものが崩壊にされてきたが、学問、立憲主義というところから政権を批判することが有効性

長谷部恭男(早稲田大学教授)は杉田敦(法政大学教授)との対談(朝日新聞、9月27日)で「少なくとも、集団的自衛権の行使は憲法上許されないという、9条解釈のコンセンサス(合意)は壊れていません。」「法律は共同体のコンセンサスを甘く見過ぎている」と言っている。

「戦争法」の主な問題点の第一は自衛隊員の虐待法であること。無理やり違憲の法律を作ったので、論理・道徳を超えた法律になっていく。水島朝穂(早稲田大学教授)は「屁理屈ではなく、無理屈」と評した。

自衛隊の後方支援は武力行使ではないと言っている。政治が変わるのは言葉が変わるとき。それが運動内部だけでなく、政治に対して大きな力を持った。

もちろん、今日の運動は初めてではなく、歴史の上

を引継いでいるとの指摘もある。そして、世界の社会運動からも影響を受け、共鳴しあっている。

戦争法の問題点

戦争法「成立」から2ヶ月。昨日(11月13日)現地時間、パリで同時襲撃事件が起こった。このようなテロ事件はアメリカ、ヨーロッパなど各地で起き、テロと戦争の連鎖が続いてきた。今回戦争法を制定したことで日本が巻き込まれる危険性が高まる。

日本野党の評価に関しては、当初の予想よりは終盤でがんばった。ただ、岸田外相と菅官房長官の不信

イメーシ図では米軍戦闘ヘリが敵国潜水艦に攻撃する。米軍ヘリの燃料が切れるときに海上自衛隊の護衛艦(事実上の軽空母)に着艦して補給を受け、飛び立って攻撃を継続する。こういう形で海上自衛隊が軍事作戦に参加する。

にもかわらず、この海上自衛隊の行動を「武力行使ではない」「後方支援だ」と言い張っている。

明らかにおかしい。相手から見たら、武力行使で共同軍事作戦。これがブーメランのように日本に返ってくる。

逆に考えて、自衛隊の潜水艦が相手国のヘリに攻撃されている。それを別の国の艦船が補給して助ける。

それは、新しい任務が加わる。PKO法「改正」による「駆けつけ警護」「宿営地共同防衛」。世界中ででき

成立で変わる交戦規定とACSA

では、戦争法の成立と16年3月と言われる施行で自衛隊はどうなるのか。まず、自衛隊の「交戦規定」を変える。日本は交戦権を持たないと言われている。武器使用基準や部隊行動基準と呼ぶが、事実上の交戦規定。こういう場面になったら、銃を撃てるか、どこを狙うかなどが規定されている。今までは、憲法9条があるので、心臓や頭を狙って撃つなどという規定は入っていない。自己保存のための武器使用というのがルールで、足を狙って撃つなどなかった。それがPKO法「改正」などで徐々に崩されて、今回「駆けつけ警護」「宿営地共同防衛」などが定められ、「NGOなどを守るため」として、交戦規定を緩めていく。

そして、新しい任務が加わる。PKO法「改正」による「駆けつけ警護」「宿営地共同防衛」。世界中ででき

国を補給で助けている第三国の艦船を攻撃できない」と答弁した。補給は武力行使ではないから、武力行使をしていない相手を今回の法律では攻撃できないと。複数の野党議員が問いただしたが、最後まで答弁を変えなかった。これまでの政府答弁では個別の自衛隊で補給している艦船を攻撃できるとしていた。明らかに「後退」した。これは問題点が指摘され、答弁の撤回や修正が繰り返されたら、通常は修正案を作る。ところが、ひとつも修正しなかった。唯一変えたのは付帯決議を付けたことだけ。ともかくメチャクチャだった。

民主主義の破壊に対して「熟議」の空間を

安保法制反対の中から

今年ようやく「国会前デモ」しました。4年前の「3・11」、そして統一地方選の直後から「介護生活・介護移住」となり、すっかり政治から遠ざかっていたのですが、安保法案反対の最終局面で、ようやく国会デモに参加しました。

昼間の国会周辺は圧倒的に高齢者が多く（組合の活動家も）、公園のベンチには一人とか二人連れのおじさん、おばさんがいて新聞を読んだり、おにぎりを食べたりしていました。そして、集会時刻になると歩道に出で行きます。私も文庫本を読んでいたら「ではお先に」と声をかけられました。

そして夜になると、シールズ（SEALDs）の若者たちが主役となって抗議行動を行いました。

SEALDsの「民主主義ってなんだ？」という問いかけに、新鮮なものを感じました。9条の存在に胡座をかいていて、9条の理念を深めようとしないうえ、さ

議会と議論の破壊

破壊

国会などのやりとりを聞いていると、自民や公明の答弁のひどさが際立っていました。論点のすり替え、はぐらかし、無意味な繰り返し、挙句はヤジ…。無論、法案がデタラメで、憲法違反が明々白々なのです。から、説得力ある論理展開などはじめから無理なのです。

しかし、あれはあれで、ひどい答弁はそのままのこと、そのものを破壊しようとしていないか、とも思えてくるのです。

つまり「国権の最高機関」という国会（議会）など所詮こんなもんだぞ、議会など役に立たない不要なものだぞ、と言っているように思えるのです。行政権力を肥大化させ、立法、司法を従わせる独裁への道を開くために、わざとあいつを答弁を繰り返しているのではないかと。（議会不要論は増えていきます）

民主主義ってなんだ？

SEALDsの「民主主義ってなんだ？」という問いかけに、新鮮なものを感じました。



アベ政治と許さず

批判的な精神

そのものを断ち切るような人々の「隷従」がなければ独裁は成立しません。隷従を拒否する精神を持ち続けているのかもしれない。（安保法制の廃止をもとめる決議を、岩手県議会や小金井市議会があげました。）

さらに今日では、国会を開かない！安保法成立に向けては大幅な会期延長をしながら、今度は憲法53条の規定を無視して、開かない。国会を強制的に停止し解体したわけではありませんが、同じ発想でしょう。

作家の高村薫さんは「言葉が壊された」と言っています。議論すること、熟議すること、そのものを破壊しようとしていないか、とも思えてくるのです。

つまり「国権の最高機関」という国会（議会）など所詮こんなもんだぞ、議会など役に立たない不要なものだぞ、と言っているように思えるのです。行政権力を肥大化させ、立法、司法を従わせる独裁への道を開くために、わざとあいつを答弁を繰り返しているのではないかと。（議会不要論は増えていきます）

さらに今日では、国会を開かない！安保法成立に向けては大幅な会期延長をしながら、今度は憲法53条の規定を無視して、開かない。国会を強制的に停止し解体したわけではありませんが、同じ発想でしょう。

作家の高村薫さんは「言葉が壊された」と言っています。議論すること、熟議すること、そのものを破壊しようとしていないか、とも思えてくるのです。

つまり「国権の最高機関」という国会（議会）など所詮こんなもんだぞ、議会など役に立たない不要なものだぞ、と言っているように思えるのです。行政権力を肥大化させ、立法、司法を従わせる独裁への道を開くために、わざとあいつを答弁を繰り返しているのではないかと。（議会不要論は増えていきます）

さらに今日では、国会を開かない！安保法成立に向けては大幅な会期延長をしながら、今度は憲法53条の規定を無視して、開かない。国会を強制的に停止し解体したわけではありませんが、同じ発想でしょう。

作家の高村薫さんは「言葉が壊された」と言っています。議論すること、熟議すること、そのものを破壊しようとしていないか、とも思えてくるのです。

つまり「国権の最高機関」という国会（議会）など所詮こんなもんだぞ、議会など役に立たない不要なものだぞ、と言っているように思えるのです。行政権力を肥大化させ、立法、司法を従わせる独裁への道を開くために、わざとあいつを答弁を繰り返しているのではないかと。（議会不要論は増えていきます）

威」を凌駕し、民主主義は危機に陥っています。（この「スーパーパワー」体制の統治機構は国境を越えて連結し一体化します。「二国では自国を守れない」と公言する安倍は、安保法制の成立をアメリカ議会でも約束してきたように、その一部になろうとしています。）

そしてナショナルな代表制民主主義の危機に直面して、新たな民主主義論も提唱されており、その特徴は「民主主義の複雑化」だと言います。その例を挙げる

・直接民主主義の再評価（住民投票、デモ、占拠）
・熟議民主主義（市民社会における熟議、「新しい公共」）
・闘技民主主義（対立軸の形成や不正義を前にした怒りという情念を重視する、例えばスペインのポデモス）
・ステークホルダー型民主主義（国境を越えた利害関係者間の交渉による合意）
・トランスナショナルな民主主義論（地域からグローバルレベルまで、最適なレベルで民主的な決定を行う構想、「補完性の原則」との共通部分も）

民主主義の形は一つではありません。選挙時だけに限らず、特定の空間（領土や行政区画）に限定されない、複数の民主主義から構成されるネットワーク内に、代表制民主主義を埋め込み、その暴走を防ぐと同時に補完する民主主義が求められていると主張します。

『シリーズ田園回帰』（農山漁村文化協会）の編集委員を務める小田切徳美は、SEALDsの「民主主義ってなんだ！」を高く評価しています。「安保法制をめぐる、国会前で巻き起こった「民主主義ってなんだ！」の叫びは、戦後レジームからの脱却」が言われるこの時代の政策決定の問題点を射貫いている、と。

小田切さんは安保法制やTPPを批判して、「戦後レジームからの脱却」は内外の「脅威」を梃子として進みつつある。そして、それらの政策転換の動きにはいくつかの共通点がある。第一に、「脅威」を強調するあまり、その事実が乱暴に扱われ、時にはずさんな内容となる点である。第二には、「脅威」が振り回され、「時間がない」ことが強調され、大きな政策転換がごく短期間で行われることであると指摘します。

そして「今必要なことはむしろ、できるだけ時間を確保して、できるだけ多くの選択肢の中から、できるだけ多くの参加者を集め、熟議を積み重ねる条件を意識的に確保することである。いわば、「熟議空間」の創造である」と主張します。「民主主義ってなんだ！」

「民主主義ってなんだ！」の先に、「遠回りのようであるが、熟議の民主主義空間を地域レベルから敷き詰めしていくことが、今求められている」と。（日本農業新聞）11月2日

例えは、今、「地方創生」の名の下に、全国で「二人」人ロビジョン」と「総合戦略」が策定されています。上（国）から下（地域）に対して、作れと指示して作られる戦略は全国同じようなものが出来上がり、上手くはいかないでしょう。

これに対して、「いま本当に必要なのは、それぞれの地域でいま住んでいる方々、地域に入ってくる方々それぞれの条件に応じてライフスタイルを考え抜いてそこに住む人々の息づかいが聞こえるような計画をつくることです」「いまは早く決めるのがよいこととされ、『スピード感のある対応』などという言葉が平気で使われていますが、新しい社会に求められるのは、『スモール・イズ・ビューティフル』に加えて、『ロー・イズ・ビューティフル』、時間がかかることを前進面としてとらえる発想をもたなくてはならない」と

スローに議論する

「民主主義ってなんだ！」の先に、「遠回りのようであるが、熟議の民主主義空間を地域レベルから敷き詰めしていくことが、今求められている」と。（日本農業新聞）11月2日

例えは、今、「地方創生」の名の下に、全国で「二人」人ロビジョン」と「総合戦略」が策定されています。上（国）から下（地域）に対して、作れと指示して作られる戦略は全国同じようなものが出来上がり、上手くはいかないでしょう。

これに対して、「いま本当に必要なのは、それぞれの地域でいま住んでいる方々、地域に入ってくる方々それぞれの条件に応じてライフスタイルを考え抜いてそこに住む人々の息づかいが聞こえるような計画をつくることです」「いまは早く決めるのがよいこととされ、『スピード感のある対応』などという言葉が平気で使われていますが、新しい社会に求められるのは、『スモール・イズ・ビューティフル』に加えて、『ロー・イズ・ビューティフル』、時間がかかることを前進面としてとらえる発想をもたなくてはならない」と

「民主主義ってなんだ！」の先に、「遠回りのようであるが、熟議の民主主義空間を地域レベルから敷き詰めしていくことが、今求められている」と。（日本農業新聞）11月2日

例えは、今、「地方創生」の名の下に、全国で「二人」人ロビジョン」と「総合戦略」が策定されています。上（国）から下（地域）に対して、作れと指示して作られる戦略は全国同じようなものが出来上がり、上手くはいかないでしょう。

これに対して、「いま本当に必要なのは、それぞれの地域でいま住んでいる方々、地域に入ってくる方々それぞれの条件に応じてライフスタイルを考え抜いてそこに住む人々の息づかいが聞こえるような計画をつくることです」「いまは早く決めるのがよいこととされ、『スピード感のある対応』などという言葉が平気で使われていますが、新しい社会に求められるのは、『スモール・イズ・ビューティフル』に加えて、『ロー・イズ・ビューティフル』、時間がかかることを前進面としてとらえる発想をもたなくてはならない」と

「民主主義ってなんだ！」の先に、「遠回りのようであるが、熟議の民主主義空間を地域レベルから敷き詰めしていくことが、今求められている」と。（日本農業新聞）11月2日

例えは、今、「地方創生」の名の下に、全国で「二人」人ロビジョン」と「総合戦略」が策定されています。上（国）から下（地域）に対して、作れと指示して作られる戦略は全国同じようなものが出来上がり、上手くはいかないでしょう。

これに対して、「いま本当に必要なのは、それぞれの地域でいま住んでいる方々、地域に入ってくる方々それぞれの条件に応じてライフスタイルを考え抜いてそこに住む人々の息づかいが聞こえるような計画をつくることです」「いまは早く決めるのがよいこととされ、『スピード感のある対応』などという言葉が平気で使われていますが、新しい社会に求められるのは、『スモール・イズ・ビューティフル』に加えて、『ロー・イズ・ビューティフル』、時間がかかることを前進面としてとらえる発想をもたなくてはならない」と

「民主主義ってなんだ！」の先に、「遠回りのようであるが、熟議の民主主義空間を地域レベルから敷き詰めしていくことが、今求められている」と。（日本農業新聞）11月2日

こりました。フランスは非常事態を宣言し、空爆の激化でそれに応えています。現行の宣言下では、裁判所の捜索令状なしでの家宅捜索、報道規制、人や車の往來の制限、集会開催や夜間外出の禁止、カフェやレス・レストランの閉店・・・などを命じることができるようですが、さらにオランダ大統領は、非常事態宣言によらなくても強力な治安対策をとれるよう憲法改正に乗り出す方針を示したと伝えられています。

「勇ましい」言葉が飛び交い、安倍首相はフランス外相に対して、「日本ができることは何でもする」と宣言しました。頭の中には戦争しかなく、強硬な姿勢こそがリーダーの証と語っていました。この首相には当然の発言でしょうが、これから起こるであろう日本を標的にしたテロを思えば、あまりに無責任で不幸な発言となりました。

来年に迫る参院選という国内政治スケジュールだけでなく、国際的な政治の中で、この国のあり方が問われているのだと、改めて思われました。

つないだ小さな手の温もりを闘う勇氣にかえて 残された僅かな時間の中で 焦らないで 緩まないで生きる

（浜田省吾「光の糸」）

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

グローバル連帯税をめぐるシンポジウム 「21世紀の資本」と グローバル・タックス

に、ピケティは逆進性を理由に消費税増税に反対し所得税、資産税、相続税で税収は調達すべきだと言っていた。

日本の格差が議論になったが、日本は経済効率優先が続いている。貧困で苦しむ人をゼロに

第2部ではパネルディスカッション「グローバル・タックス、グローバル累進的資産税の可能性を探る」が行われた。

民間税調の三木義一さん（青山学院大学教授）は、民間税調の税制大綱最終答申案について報告。

11月7日、シンポジウム『ピケティ「21世紀の資本」とグローバル・タックス』

行き詰まる資本主義、日本の格差・貧困、国際課税への提言が行われた。グローバル連帯税フォーラムと民間税制調査会が共催した。

第一部では橋本俊昭さん（京都女子大学客員教授）が基調講演。

「日本は貧困大国。なぜ貧困が増えたのか。先日非正規が雇用の40%を超えた。最低賃金も低い。英仏では時給1200円。」

機会の格差があり、男女格差、教育格差もある。30年前は慶応大生の親が東大生の親より所得が多いが、今は逆。大学進学率にも親の所得による格差がある。ピケティ来日シンポの時

意味が無い。

今の制度では負担と給付がつりあっていない。貧しい若者から豊かな高齢者への援助になっている。保険から税方式へ移行していかないといけない。公平な年金課税が必要

消費税については、引き上げはやらざるを得ないという立場。軽減税率は逆進性解消にならず、間違った要求とした。橋本さんは逆進性対策としての軽減税率という主張だった。

パネリストの水野和夫さん（日本大学教授）は、「先進国はゼロ金利、ゼロ成長。資本主義は終わっているのに、終わっていないことになっている。金利の2・0%割れは400年ぶり。

日本の金融資産は1700兆円。預貯金金利はゼロだから、預貯金以外で資産を5%以上増やしている。景気が回復しても低所得層には残らない」

上村雄彦さん（横浜市立大学教授）は「現在はグローバル格差社会。0・14%の富裕層が81・3%を所有している。トップの85人が35億人分の富を保有している。膨張するギャンブル経済によって格差拡大が進んでいる。

グローバル・タックスとはグローバル化した地球社会を『国』と見なし、地球規模で税制を敷く。タックス・ハイブんに25200

3840兆円が隠されている。タックス・ハイブン対策として、グローバル・タックスが必要。グローバル連帯税には航空券連帯税、グリーン開発メカニズム税、グローバル累進資本課税、金融取引税、地球炭素税、武器取引税などがある。前者は実施されている。

グローバル累進資本課税は、富裕層が資産を各国に分散しているのに対応する。税収額はEUで370億ドルと試算されている。

有効性についての批判があるが、世界大戦後、各国で実施された累進課税が上位1%の富を劇的に減少させた事実がある。

金融取引税は税率0・05%なら、実体経済への悪影響は小さく、税収は年6550億ドルと試算される。

11年、欧州委員会はEU加盟国に欧州金融取引税導入を求める指令案を提出。12年、EU11カ国が導入の意思を表明。作業部会で議論中だが、導入は17年1月に延びる見込み。予想税収は7兆6950億円。

日本では国際連帯税推進協議会（寺島委員会）が活動している。

小西雅子さん（WWF気候変動・エネルギー・プロジェクト・リーダー）は温暖化対策の財源としての国際連帯税への期待を語った。

消費税増税の前提となる軍事費削減など歳出入見し議論があまりなかったのは残念だった。

(K)

15年夏の運動から16年参院選へ

シールズ・ママ・学者と討論会

とりま自民以外

11月21日、「徹底討論」とうすれば安倍政権を倒せるかー2015年夏の戦争法反対運動から16年参院選へ」が横浜で行われた。主催は緑の党かながわ。

千葉泰真さん（SEAL Ds、明治大学大学院）は「この国では70年前、愚かな戦争で300万人以上が死んだ。それから生まれた崇高な理想が憲法。」

政治を任せすぎた。12年に脱原発デモを見て行って、帰りに話し合ったのがシールズの源流。サスブルで秘密保護法に反対した。

樋口敦子さん（ママの会）は「私は65年生まれのパパル世代。2年半前までは政治に関心はなかったが、 아이폰でいろいろ見るようになって、初めて放射能汚染の問題を知った。」

山根徹也さん（安本法制に対する横浜市大有志、横浜市大教員）は「05年から学内で学生と一緒にやろうと憲法カフェを立ち上げ、11年以降は脱原発デモの見物に学生を誘った。」

集会は猪股美恵さん（前・川崎市議）を司会に4人から問題提起。

白川真澄さん（緑の党かながわ）は、「戦争法成立の後、安倍は参院選までは経済だ、強い経済と打ち出した。一方で辺野古、PKO任務拡大、原発再稼働、TPPを進めている。だが、支持率が下がらない。理由として、アベノミクスによる景気回復ムード、中国脅威論、野党の不在状況などがある。」

安倍政権と対決する運動を多面的・持続的に展開する。60年安保の後は挫折感が強かった。今回はそうではない。参院選に向けて、市民の側が連携して野党に働きかける」

若者は政治的無関心の象徴だった。私はゆとり世代。学校教育では全て数字で測られる。大人が政治を敬遠させてきた。世代的には3・11が大きい。私は宮城出身。日本は豊かだと思っていたが、幻想が壊れた。3・11までは一部の人間に動きを止めない」

この夏、あれよあれよと事態が進み、止めるしかない国会前へ行った。フェイクブックでママの会を知り、これは乗るしかないと思った。神奈川県では1万人がいわねした。ママの会は全国60箇所で開催している。無関心層にどのように働きかけるのか。横のつながりが大事。自民は黒。他は白。『とりま自民以外』。ネズミ講のように隣の人に広げていこう。

「戦後レジームからの脱却」を言うが、やっているのは対米従属。

参院選挙は難しい。政党政治が機能している国なら野党が役割を果たすはずだが、ゴタゴタしている。本当は政党がイニシアチブをとるべきだが、市民の側がとるしかない。いろんな政党の尻をたいて、国民の側を向かせる。

個別イシューで違いはあるが、立憲主義・民主主義否定にイエスかノーか。受け皿になる政党のあり方が必要。

まだ大きな動きは無いが、年内・年明けには世論を形成する。9月19日から私生活を送っている。ママに一番想像力があると信じていた。戦争する政府を許さない。自由が壊されるのを恐れる。がんばるしかない」

7月には市大で安本法制シンポジウムを行い、法案をつぶすつもりでアピールの賛同を拡大していった。大学教員は普通動かないが、意外な人がアクティブだったりする。

「戦後レジームからの脱却」を言うが、やっているのは対米従属。

この夏、あれよあれよと事態が進み、止めるしかない国会前へ行った。フェイクブックでママの会を知り、これは乗るしかないと思った。神奈川県では1万人がいわねした。ママの会は全国60箇所で開催している。無関心層にどのように働きかけるのか。横のつながりが大事。自民は黒。他は白。『とりま自民以外』。ネズミ講のように隣の人に広げていこう。

個別イシューで違いはあるが、立憲主義・民主主義否定にイエスかノーか。受け皿になる政党のあり方が必要。

まだ大きな動きは無いが、年内・年明けには世論を形成する。9月19日から私生活を送っている。ママに一番想像力があると信じていた。戦争する政府を許さない。自由が壊されるのを恐れる。がんばるしかない」

7月には市大で安本法制シンポジウムを行い、法案をつぶすつもりでアピールの賛同を拡大していった。大学教員は普通動かないが、意外な人がアクティブだったりする。



「戦後レジームからの脱却」を言うが、やっているのは対米従属。参院選挙は難しい。政党政治が機能している国なら野党が役割を果たすはずだが、ゴタゴタしている。本当は政党がイニシアチブをとるべきだが、市民の側がとるしかない。いろんな政党の尻をたいて、国民の側を向かせる。個別イシューで違いはあるが、立憲主義・民主主義否定にイエスかノーか。受け皿になる政党のあり方が必要。まだ大きな動きは無いが、年内・年明けには世論を形成する。9月19日から私生活を送っている。ママに一番想像力があると信じていた。戦争する政府を許さない。自由が壊されるのを恐れる。がんばるしかない」

横田悦子さんを追悼する

ヨコエツ、天より我らを叱咤せよ！

横田悦子さんが、10月10日に亡くなられました。骨髄異形成症候群と診断され、昨年5月から抗がん治療を続けてきました。今年8月には臍帯血移植を行いました。残念な結果となりましたが、

た。63才の早すぎる別れです。入院の2日前、安部法案に反対するデモに元気な姿を見せていただけに、こんなに早く、こんな日が来るとは、未だに信じられませんでした。

11月7日には、送る会が行われ、予想を倍する800人もの人々が、別れを惜しみました。多くの人に愛された、横田さんらしい、笑いと涙の会となりまし

た。私が「横田悦子」という名を知ったのは、1993年です。前年の県知事選挙への取り組みを継続させ、地域から政治を組み立て直そうという思いと、社会党の解体を受けて憲法を守る政治勢力を再構築しようという思いとから「時代を切りひらく平和憲法の会」を立ち上げました。その入会申し込みの郵便振替に「横田悦子」の文字を目にし

ました。その後、何万字と読むことになる、横田さんの文字でした。本人に出会ったのは、岡

山市議選の候補として名前があがった時でした。以後、約20年間、95年初当選の岡山市議から県議へと、忙しくも楽しい、そしてやりがいのある仕事をこころ一つこころになりまし

た。地方分権が急速に進む時代であり、また地球サミットから北京女性会議を経て、市民自身が地域の計画づくりに参加する時でした。初めての課題が次々と現れましたが、多くの人が、彼女の笑顔から、励ましと勇気をもらい課題に立ち向かっていきました。

また女性の政治参加を進めようと、積極的に女性候補の擁立を目指し、「立候補しないか」と、多くの女性の背中を押してきました。かつて横田さんを評して「相撲に例えれば、勇み足で敗れることはあっても、決して引き技で負けることはない人だ」と書いたこと

があります。その通りに、明るく抜群の行動力で、議会内外で、多くの課題に取り組み、多くの人を動かしてきました。そして一貫して市民や、女性、子ども、弱いものの立場に立った政治を志し、実践した生涯で、私が折れたのですが、あの判断が良かったのか、今でも時々思い出すことがあります。

「何をいつまでもよくよ考えているのよ、私は反省しないのよ」と笑い飛ばされそうです。そう、あ



横田悦子さん

と、排除をしないで野宿できる権利をという主張の葛藤でもあります。

この本では新聞で報道された全国で散発的に行われた遊郭でのストライキを丹念に拾い集めまとめています。娼妓たちの労働運動があったという事を歴史から救い上げたものです。その裏には報道もされない多くの逃亡や、サボタージュ等いろいろドラマがあったと想像できます。いまでもセックスワーカーの労働運動が非正規労働者の組合を中心に取り組まれていると聞きます。

さらには「アジア太平洋米の京都会議2005」開催にも尽力しました。緑の党へと向かう流れを間違わずに加速させました。

もちろん全てが順風満帆だったわけではありませんが、議会の中では極少数派です。議会の中で極少数派も度々あります。

ある予算案の賛否で、どうしても私が譲らず「あなたやってきたのだから、あなたの意見を入れる」と彼女が折れたことがありますが、結局、納得できないことを強要するのはダメだと、私が折れたのですが、

その活動は岡山にとどまらず、全国の市民派議員とのつながりを作り出しました。「虹と緑の5000人リスト運動」では事務局長として、2004年「みどりの会議」参院選を闘いました。

あなたと云う言葉に無限の侮辱をこめてかのバイブルウーマンが「一人一人の事情については可愛そうに思うが…」などと多聞のよさそうなる事を云いながらまたその賤業という迷信にとらわれて可愛そうな土女を人間から除外しようとしていた。伊藤野枝

という言葉も引用されています。私たちの「運動」は、高みからではなく、どのような低い位置で、どのような関わられるのか問われているところ。瀬木宣夫

紹介

『遊廓のストライキ 女性たちの二十世紀・序説』を読む

昨年「全国地域・寄せ場交流会」が大阪で開催された時に釜ヶ崎案内で現存する飛田遊郭を見せてもらいました。今、世界遺産とかで富岡製紙工場が観光地化され多くの人が訪れている

ようです。明治国家の富国強兵産業政策の犠牲になった女工たちの歴史に関心が寄せられているという事ではありせん。

この本は著者・山家悠平氏の博士學位論文に加筆修正を加えたものです。娼妓制度「従軍慰安婦」の問題にも関連してくるテーマでもありますが、娼妓運動は1882年(明治15)群馬県のキリスト者を中心とした民権家による議会への廃娼請願から始まったそうです。

娼妓の発生は歴史的に「女性たちを集めて売春を行わせる遊里が社会の中で形成された時期は地域によって異なるが、京都では応永年中(1344~1428年)に開かれ、元和寛永(1615~1644年)の頃には江戸・大阪・京都の3都市で公認の遊郭が設けられたそうです」(今西一著『遊女の社会史』有志舎)。

以降近代化を推し進める明治政府の対応は1872年(明治5)「芸妓や娼妓は金銭によって売買されるので、牛や馬といった家畜と等しい存在であり、家畜に借金返済の義務はない」という理由で解放令を出した(司法省令第22条)。そし

てその2日後東京府で、人身売買を厳禁してからも選んで遊女・芸妓の職業に就きたい者は審査の上で許可するという布令が知事より出された。これが戦後まで続いていく国家の対応である。

この娼妓運動、特にキリスト者や矯風会等の活動に対して批判的視座を示したのは青踏同人たちであった。特に与謝野晶子・伊藤野枝らの主張は秀逸であった。今日でも考えさせられる問題でもある。それは野宿生活者には、生活保護をかけるべきだ・保護を受けざるべきだという善意の主張

と、排除をしないで野宿できる権利をという主張の葛藤でもあります。

この本では新聞で報道された全国で散発的に行われた遊郭でのストライキを丹念に拾い集めまとめています。娼妓たちの労働運動があったという事を歴史から救い上げたものです。その裏には報道もされない多くの逃亡や、サボタージュ等いろいろドラマがあったと想像できます。いまでもセックスワーカーの労働運動が非正規労働者の組合を中心に取り組まれていると聞きます。

さらには「アジア太平洋米の京都会議2005」開催にも尽力しました。緑の党へと向かう流れを間違わずに加速させました。

12・13三里塚―東峰現地行動へ

(前略)9月2日、千葉地裁(金子直史裁判長)は不当にも空港会社の言い分を全て認めて、建物を撤去し土地を明け渡せという判決を言い渡した。(中略)

千葉地裁はこうした空港会社の手続きによる解決を求め「ことは「強制的手段に当るとは解し難い」と空港会社を擁護し、判決を下した。かかる不当判決は断じて認めることはできない。空港反対同盟は直ちに控訴し、最後まで裁判闘争を闘い抜くことを表明している。

国土交通省・空港会社は2020年東京オリンピックまでに発着回数を増やすために、夜間飛行制限時間(現行では午後11時から午前6時まで)を飛ばない)を緩和するという方針を地元(提示している。LCC(格安航空会社)の要請に心え、

飛行制限時間を緩和するといふのだ。資本の利潤の追求のために住民の生活を破壊する制限時間緩和を許すことはできない。

さらに国土交通省は2030年までに成田に第3滑走路を作るといふ計画を作成し、地元を提示した。9月17日にはこれを話し合う4者協議会(国と県、成田市など地元9市町、空港会社)が開かれ、計画推進のために協議が行われた。

ここで国は空港会社に対して滑走路増設の効果やコスト、騒音問題を調査するチームを設置するように提示したという。われわれは住民追い出しによる廃村化、農業破壊、騒音の拡大による生活破壊をもたらす第3滑走路建設に断固反対し闘い抜く。

●主催…三里塚空港に反対連絡先…千葉県山武郡芝山町香山新田90-5/電話&FAX0479-7818101

●日時…12月13日(日)午後1時結集

●場所…旧東峰共同出荷場跡(成田市東峰65-1)、開拓道路に向けてデモ

●会場への行き方…東成田駅地上12時集合/迎車待機で会場へ(10:34発京成上野(特急)11:42着成田11:52発/11:57着東成田)

●会場…東成田駅前集合/迎車待機で会場へ(10:34発京成上野(特急)11:42着成田11:52発/11:57着東成田)

●会場…東成田駅前集合/迎車待機で会場へ(10:34発京成上野(特急)11:42着成田11:52発/11:57着東成田)